

ふれあい

2011年 第37号
冬号

〒372-0817 群馬県伊勢崎市連取本町12-1
TEL.0270-25-5022 (代) FAX.0270-25-5023
URL : <http://www.hospital.isesaki.gunma.jp>
発行責任者/病院長 荒井泰道 編集/広報編集委員会

〈目次〉

病院長あいさつ	1
診療科紹介～内科(肝疾患)(胆道・膵疾患)～	2
冬の疾病について	3
ジェネリック医薬品について	4
かかりつけ医ご案内カウンターの紹介	4
Medical Side Story	4

病院長あいさつ

病院長 荒井泰道

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、職員が一丸となって当病院の理念「愛ある医療、誠実な医療」の実践に努めて参りました。

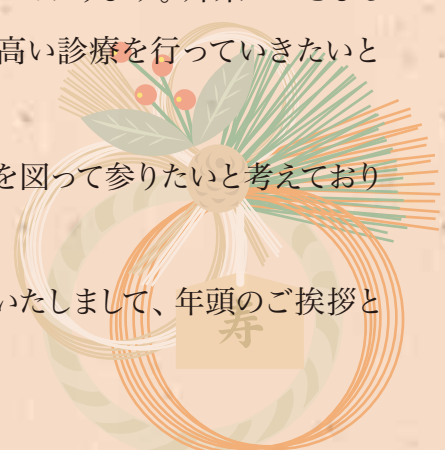
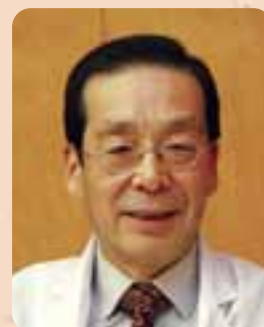
当病院では、経営改革の様々な取組みが実施されております。地域中核病院としての機能を維持し発展しつづけるには、安定した病院経営が必須となります。今年も引き続き、より良い医療サービスの提供に努めながら経営改革を実行して参ります。

また、国は医療供給体制について、大規模総合病院・200床未満の中小病院・診療所の機能分担を明確にしています。当病院は、急性期入院医療、二次救急医療、高度医療の役割を担っています。

入院では、急性期の治療が終了し状態が安定しましたら、それぞれの患者さんの状態に適した役割を担う医療機関などへ紹介させていただいております。外来につきましては、紹介患者さんと特殊専門外来に絞った体制で質の高い診療を行っていききたいと考えております。

当病院の役割を十分に果たし、地域の医療水準の向上を図って参りたいと考えております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成23年が皆様にとりまして良い年でありますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



診療科紹介 ～ 内科 ～

肝疾患

内科 診療部長 市川 武

◆ 肝臓病について ◆

肝臓は上腹部のやや右側にあり、重さは900～1,600グラムもある人体の中で最も大きな臓器です。肝臓は肝炎を発症しても、かなり病状が進行するまで症状が出にくく、「沈黙の臓器」といわれています。一方で、肝硬変の7割、肝がんの9割の原因となっている肝炎ウイルスの感染者は日本国内に約200万人いると考えられ、その半数は感染に気づいていません。症状がなくても1年に1回は検診を受けて、肝機能異常が指摘された人は、必ず医師に相談してください。

◆ 外来・入院の現状 ◆

当病院では、常勤医3名と非常勤医2名で診療にあたっています。埼玉県に近いことから群馬県内に限らず埼玉県からも多くの患者さんが受診されます。毎週火曜日午後の肝臓病専門外来では、急性肝炎、慢性肝炎から肝硬変、肝がん、肝硬変の合併症として生じる食道胃静脈瘤まで肝臓病に関連する疾患の診療を行い、病状に応じて入院治療としています。

C型慢性肝炎に対しては、肝炎の治癒、肝硬変への進行抑制、肝がん発生の予防を目的としてペグインターフェロンとリバビリンの併用治療を行っています。

肝がんには、局所麻酔後にがんの中心に電極針を刺し、ラジオ波により腫瘍を壊死させるラジオ波焼灼療法、肝がん栄養を供給する血管を詰めることにより、がんへの栄養供給を遮断して肝がんを壊死させる経カテーテル的肝動脈塞栓療法などをはじめとして、がんの大きさ、個数、部位、肝機能に応じた治療を選択し行っています。

◆ 患者さんへお願い ◆

外来では限られた時間内に数多くの患者さんの診療を行わなければなりません。そのため、待ち時間が長くなり、患者さんに多大なるご迷惑をおかけしています。解決策としては、患者さんにいわれる「かかりつけ医」を作っていただき、「かかりつけ医」と当科が連携しながら診療を継続していくことを考えておりますので、皆様のご理解をいただきますようお願いいたします。



胆道・膵疾患

内科 医長 伊島 正志

◆ 胆道・膵疾患について ◆

胆道・膵疾患は常勤医2名・非常勤医2名で診療にあたっており、群馬県全域のみならず県外からも多くの患者さんが来院されます。平成21年度の内視鏡的逆行性膵胆管造影検査（ERCP）の検査総数は473例となり関東圏内でも有数の実績を残しました。また、急性胆管炎症例に対して緊急内視鏡治療を行う体制を整えています。

◆ 診療内容 ◆

① 胆管結石

平成21年度には147症例が入院加療されました。CT・MR胆管膵管造影（MRCP）・腹部超音波検査などで診断後、内視鏡的逆行性膵胆管造影検査（ERCP）、内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）などで治療をします。内視鏡的治療は低侵襲のため、従来の外科的治療よりも短い入院期間ですみます。

② 急性膵炎

平成21年度には38症例が入院加療されました。重症化すると致死率が10%前後となることから、集中治療室（ICU）を含めた早期治療が可能である当病院では症例が増加しています。

③ 胆道癌・膵癌

平成21年度には計69症例が新規に診断され、治療を行いました。胆道閉塞を伴う症例はERCP・EBDで治療をし、手術の適応とならない症例では内視鏡的金属ステント留置術（EMS）施行後、ゲムシタピン（GEM）やTS-1による全身化学療法を行います。現在当病院では化学療法センターが開設され、より質の高い治療が行われるようになってきました。

その他、膵嚢胞、原発性硬化性胆管炎、自己免疫性膵炎などの特殊疾患の診断治療も行っています。

◆ 患者さんへお願い ◆

胆道・膵疾患は近年増加傾向にあります。我々常勤医2名は最善の医療が提供できるように日々努めておりますが、外来では限られた時間内に数多くの患者さんの診療を行ううえ、緊急の内視鏡処置や入院患者さんの治療も行わなければなりません。そのため、待ち時間が長くなり患者さんに多大なるご迷惑をおかけすることがあると思われます。皆様のご理解をいただきますようよろしくお願いいたします。



冬の疾病について



肺炎

内科 診療部長 石原 真一

肺炎とは、さまざまな病原菌の感染によって肺に炎症が起こった状態のことです。日本では肺炎が死因の第4位を占めており、重大な病気のひとつと言えます。一般的に、体力が落ちているときや高齢になって免疫力が低下すると、かかりやすくなると言われています。また、食べ物の飲み込みがうまくできない方は、食べ物が気道に入ってしまうことが原因で「誤嚥性肺炎」を起こしやすいことが知られています。

肺炎の主な症状は咳、痰、発熱、胸痛、呼吸困難などですが、高齢者では食欲不振や元気がないなどの症状のみが前面に出る場合もあるので注意が必要です。

肺炎が疑われた場合は、症状や胸部レントゲン写真、血液検査などをもとに診断を行い、病状を判断します。軽症の方は通院治療も可能ですが、中等症及び重症の方は入院して治療を行います。一般的に、病原菌に対して適切な抗菌薬が投与できれば、1~2週間以内に治癒しますが、免疫力が低下している方や高齢の方などは症状が重くなり、死亡するケースもあります。

高齢の方や慢性肺疾患を合併している方は、肺炎を予防するために「インフルエンザワクチン」や「肺炎球菌ワクチン」の接種をお勧めします。また、誤嚥を起こしやすい方は、「口腔ケア」※を行い、口の中をきれいに保つことが大切です。

ロタウイルス腸炎

小児科 診療部長 荒木 千晶

下痢は小児期とくに乳幼児期においては、発熱に次いで多くみられる症状です。そのうち多くは腸管感染症に伴う下痢で、細菌やウイルスが原因です。中でも多いのがロタウイルスによる下痢で、冬期乳幼児下痢症ともいわれています。文字通り冬に多く、白っぽい下痢が頻回にみられ、嘔吐を伴うこともあります。乳幼児は頻回の下痢や嘔吐のため重症な脱水症になり、点滴や入院治療が必要となることもあります。下痢の回数が多く、十分な水分がとれない場合などは、早めに診療を受けた方が良いでしょう。年長児や嘔吐がない場合は経口補水療法が有効です。塩分などが入ったイオン水を少量ずつ飲む方法で、家庭でできる治療です。ロタウイルスは感染力が強く、経口感染により家族や周囲の人々、もちろん大人にも感染していきます。そのため、手洗いなどの予防も大切です。

現在、経口ワクチンが開発され、世界各国で認可されています。日本でも早くワクチンが使えるようになるといいですね。



※口腔ケアとは？

歯科口腔外科 主任診療部長 佐々井 敬祐

口腔ケアの定義は、狭義には口腔衛生の改善のためのケアをさし、ブラッシングなどの口腔清掃を指しますが、最近では、範囲を広げ治療まで含めることが多く、摂食、咀嚼、嚥下訓練まで含めることもあります。

口腔ケアの目的：口腔ケアの目的は、誤嚥性肺炎の予防、口腔疾患の予防、QOL（生活の質）の向上、治療による口腔粘膜炎や味覚障害の予防などです。

口腔ケアの内容：食物残渣の除去、歯垢の除去、舌苔の除去、口腔内マッサージ、唾液腺マッサージ、舌の運動などが挙げられます。

口腔ケアの用品：歯ブラシ、舌ブラシ、口腔内清掃用スポンジ、口腔内湿潤剤、綿棒、ガーゼなどがあり、薬局等で購入できます。



ジェネリック医薬品について

薬剤部 副部長 山口梅志

近頃、テレビや新聞などでも後発品、ジェネリック医薬品という言葉が聞かれる機会が多いかと思えます。

病院でもらう薬は、以前は先発薬品、いわゆるその薬を開発した製薬会社の薬がほとんどでした。しかし、薬は20～25年の特許期間が経過するとその特許が切れて、他の製薬会社も製造販売出来るようになります。薬の効き目や使い方、副作用などは特許期間のうちに情報が蓄積され、安全性が担保されるようになります。こうして、先発薬品の特許が切れた後に、別の製薬会社が同等の有効成分でつくる薬がジェネリック医薬品（後発医薬品）です。製薬会社では、後発品に関して薬の効き目が同じかどうかの試験（生物学的同等性試験）をして製品の品質を保証しています。また、後発品は開発のコストがかからないので安い価格で製造販売することが出来ます。さらに、後発品の中には先発品にはない製剤的特長、飲みやすさの工夫がされているものもあります。

現在、医療費の増大が社会問題となっています。医療費の削減という点からも、国は後発品の使用を促進しています。医療費は、私たちが納める社会保険料等から支払われています。一人一人が医療費を削減することがみんなの社会保険料を減らすことに繋がります。そのためにも、安全で安価なジェネリック医薬品を積極的に使用することをお勧めします。医師が先発品名で院外処方せんを出しても、調剤薬局で患者さんご自身が薬剤師と話し合うことにより後発品に変更することができます。

当病院においてもジェネリック医薬品を積極的に採用していますので、ご理解とご協力をお願いします。

かかりつけ医のご案内カウンターの紹介

医療サービス課 地域医療連携係

医療機関の役割分担、また地域医療連携を進めるため、患者さんにはライフタイムパートナーとしてのかかりつけ医をお持ちいただくよう、相談、紹介させていただくコーナーを一階のロビーに開設しました。

主に薬だけの患者さん、慢性期疾患で症状が安定している患者さんなど、当病院医師がかかりつけ医での継続治療を勧める患者さんに、最適な医療機関を紹介させていただきま

す。当病院の連携医である約200の地域の医療機関を中心に、前橋市、太田市、本庄市の医療機関も紹介できるように開業医リーフレットを掲示し、患者さんのご相談に対応しています。



Medical Side Story

3

「培地（ばいち）」

人の体には700種類以上の細菌が住んでいると言われる。

人間はまさに細菌とともに生きている。しかし、これらの細菌の中には病気の原因となるものも存在する。仮にあなたが肺炎になったとしよう。まず、原因となった細菌の種類を突き止めるためにはどうしたらよいのだろうか。私たちはあなたの痰を「培地」に塗り、その中に含まれる細菌を増やす。次に、増えた細菌の性質を調べて種類を判定する。細菌の種類がわかれば、それを殺すことのできる効果的な抗菌薬を処方することができるだろう。このように、細菌を育て、増やす役割を担っているのが「培地」である。

「培地」は絵の具のように様々な色をしている。あるものは羊の赤血球を用いたために真っ赤な色、あるものは赤血球を



ゆっくり加熱し溶かしたためにチョコレート色を、またあるものは墨を混ぜ合わせたために黒など。これらの色は多種多様な細菌を選択的に効率よく育てるための工夫の結果であり、先人の知恵が詰まっている。

手前の細長い試験管のようなものは「小川培地」という結核菌専用の培地である。結核菌は発育が遅いため、長時間培養する必要がある。場所をとらないよう立てて保存するために細長い形となったという訳だ。この培地は1949年、小川氏らによって開発されて以来、わが国の結核診断に大きな役割を果たしてきた。結核は過去の病気と思われがちであるが、当病院でも年間に十数人が新たに結核と診断されており、いまだに注意すべき感染症の一つである。

細菌との闘いは、時代とともに変化する。しかし、闘いが終わりを迎えることはないだろう。培地の活躍もまだまだ続きそうである。

(写真・文 医療副部長 小林裕幸)